



新城市

令和5年11月30日

新城市民病院の再整備手法の決定及びあり方検討会報告書に係るパブリックコメントの実施結果について

建物・設備が経年により老朽化している新城市民病院が、今後も質の高い医療の提供や、救急医療をはじめとする政策医療の重責を担い、東三河北部地域の基幹病院としての役割を十分に発揮し、将来にわたって安定的な運営を行うためには、医療を取り巻く環境や将来を見据えた上での再整備を検討する必要があります。そのため令和4年度には「新城市民病院あり方検討会」を設置して現地建替え、既存施設の改修、移転新築の3つの再整備手法について建築的な視点や医療的な視点等、病院内外の視点から幅広く検討を重ね、最も課題が少なく地域の基幹病院として今後も責務を果たしていくことができる再整備手法は移転新築案であるとの報告書を取りまとめました。

今年度、再整備手法を決定するにあたりより多くの市民意見を参考とさせていただくため、この報告書について、パブリックコメントを実施するとともに、市民病院医局会議や新城市医師会、北設楽郡医師会、新城歯科医師会、新城市薬剤師会、代表区長等からの意見聴取を行いました。そして、総合的に判断し、再整備手法は移転新築案とすることを決定しました。

併せて、パブリックコメントの実施結果を公表します。

【問合せ先】

経営管理部総務企画課

電話：0536-23-7852

FAX：0536-22-2850

Eメール：byouin@city.shinshiro.lg.jp

新城市民病院あり方検討会報告書に係るパブリックコメント募集結果

新城市民病院あり方検討会報告書に係るパブリックコメントに対して、皆さんから寄せられたご意見とこれに対する市の考え方を以下のとおり公表します。

- 1 募 集 期 間 令和5年8月16日(水)から令和5年9月15日(金)
- 2 意見提出者数 24件
- 3 意見及び市の考え方 別添のとおり
- 4 意見提出内訳

提出方法	人数
電子メール	13
院内特設ブース	8
ファクシミリ	2
持参	1

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
1	<p>新しい土地 新城東高校の跡地に新しくしっかりした市民病院の建設してほしい。 安心した医療が受けられる様に、消防署も近い、個人の病院と連携しやすい。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。 移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>
2	<p>現在の市民病院は通院に便利という理由で、私的には現地立て改案を推したいのですが、報告書を拝読した限りでは移転もやむなしとは思いますが。ただし、公共交通機関の便がよいこと、ハザードマップによる自然災害の被害が比較的低いことは考慮すべき点です。 よって、移転候補地がどこになるかわかりませんが、・交通の便を重視すること 例え豊川市民病院は八幡駅前にありバスでも通院可能なためアクセスが非常によいが、豊橋市民病院は豊橋駅からバスで行くのに少々時間がかかりアクセスがあまりよくないので、マイカーがないと不便。・自然災害時に通常通り機能できる場所であること 豊橋市民病院は水災や地震発生時の液状化や津波の危険が想定されている。・箱（建物）は立派でも中身が不十分にならないこと 建て替えた結果やっぱり救急車が豊川市や豊橋市へ走らないといけなような事態が継続しないよう、医療の体制整備を図ってほしい。以上3点は最低限考慮していただきたい私の意見です。 もし、現地建て替え案が復活するのであれば、現在の国道の整備も一緒に進めていただきたいです。 現時点での私の考えは以上のとおりです。参考にならないかもしれませんが、ご一読ください。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。 また、頂いた3点の意見は今後行う予定の基本構想、基本計画策定時に検討させて頂く予定です。</p>
3	<p>○患者の来院手段の調査は行われたか。 立地の利便性が議論される場合、来院手段の実績がどうだったかは必ず議論の対象になると思う。来院手段の調査は、その素数が出るだけ多いことが望まれる。 ○設備の移設、新設についての検討はどうされたのか。 休診日に一挙に移動できるものもあるであろうが、そうでない機材もあると思う。 全部新調するわけにもいかないだろう。 土地の取得費もそうだが、コスト面でこれらのことが述べられていないのが気になる。 ○防災、防火への検証。 広報の改築見取り図で見ると限りでは、火災対応に問題があると思う。 防災では、奥三河の拠点として受け入れ態勢への検証がどうか。 感染症対策も学習効果を盛り込みたい。 この3点を踏まえた意味で、低コストで汎用性の高い付属施設は欠かせない。 ○新規立地の場合の私権とのからみ。 まず思うのは、新規立地の場合、前例の轍を踏まないことである。 また、立地の場所によっては河岸段丘の上になることも考慮すべき。</p>	<p>立地の利便性については、移転新築の方針となった際には敷地選定の条件の一つになると認識していますので、調査方法の検討と合わせ、今後検討させていただきます。 設備の移設、新設の検討については、今後行う予定の基本構想、基本計画策定時に検討させて頂く予定です。 防災、防火への検証についても、今後予定されている基本構想、基本計画策定時に検討させて頂く予定です。 新規立地の場合の私権とのからみについては、貴重なご意見として承り今後の事業の参考にさせていただきます。</p>
4	<p>広報ほのか 9月号を読んで、3つの再整備案のうち、移転新築に賛同します。 現在の想定より規模を小さくしても利便性のよい高齢者や医療従事者の動線を考えた施設を作ることができれば、奥三河の町村の利用者が増えると思います。 立地については新城東高校の跡地を活用することはできないのでしょうか。 7年前に設楽町から新城市に転居してきました。その理由のひとつが、この先高齢になった時に設楽町に開業医がいなくなるのではないかという不安があったからです。 現在は家族3人が新城市民病院に通院しています。通院には自家用車を利用していますが、長距離を運転することなく受診できる病院があることは暮らしの安心にもつながっています。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。 移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
5	<p>ほのかを拝見し、今後の新城市民病院へのあり方についてご意見させていただきたいと思いメールさせていただきました。現在、医師不足により、救急搬送された患者さんの中でも、診られない患者さんは豊川、又は豊橋市に搬送されているのを存じ上げています。</p> <p>高齢化社会が進む新城市で、税金の中から賄って市民病院を存続させる必要があるのでしょうか？</p> <p>わたくしは新城市に嫁いできた余所者ではございますが、以前私の住む街では、市の財政がカツカツで市民から税金を巻き上げて感は、少なからずなかったです。</p> <p>市民からの理解を得ない中で、新庁舎工事決行→完成。現在、給食センター完成への予算や、その他の予算も当てがう中で、市民病院老朽化のために充てる予算はどこから算出されるのでしょうか？</p> <p>市の見切り発車なやり方には、反対です。</p> <p>少しずつ市に納める金額が増えていることも、頑張って働いている市民にとってはとても負担ですし、市民からもらった税金でのんびりと仕事をしている公務員にも不満です。</p> <p>市の仕事に携わってれば、のんびりと仕事していればいいのですか？</p> <p>公務員こそ、市民のためと思って仕事してくれていたら税金も快く納めれるのに、公務員は時間きっちりでおかつ給与もきっちり受け取ってる。</p> <p>市内に住んでいますが、現在の医療体制に疑問、不満を感じ、市内の病院は利用していません。</p> <p>本来、市民病院は、市民のための最後の砦的な病院でなくてはならないのに、新城市民病院は何年も前から、他所から来てもらう先生たちのおかげで首の皮一枚でつながっている病院です。</p> <p>この意見ひとつも反映されることはないでしょう。</p> <p>すでに決定事項で、一応市民の意見を受け付けます的な、事務的なものでしょうから。病院の在り方を本当に考えているのでしょうか。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。</p> <p>財源に関しては多くが借入金である公営企業債になる予定です。</p> <p>また、事業費に関しては適正規模での事業となるよう事業費の抑制、将来負担の縮減に努め、また、持続可能な病院の経営という視点を持った再整備とすることが重要であると認識しています。</p> <p>ご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>移転場所によりますが年数 コスト面を聞いて移転新築が良いと思います。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>
7	<p>現在地は通院に大変便利なのでこのままの位置に建てていただくのが希望です。 (駅の近くなので遠方から来る方も便利だと思います。)</p>	<p>現在地の建替えは、あり方検討会で検討させていただきましたが課題が多いと認識しているため、移転新築案が最適であると結論付けさせていただきました。頂いたご意見も当然の事と認識していますので、今後の方針が決まった際には参考にさせていただきます。</p>
8	<p>全面移転を希望します。 診りょう科目を充実してほしい。 患者の多い又は多ヒン度に利用する科の医師を増やすよう希望します。 診りょう費も必要に応じて引上げすることも必要です。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>
9	<p>私は、過去にくも膜下を発症し、高次脳機能障害になり東三河には専門なりハビリ施設が無く名古屋リハビリテーションセンターで1年2ヶ月のリハビリ生活をして社会復帰をして、今年で12年になります。新城市民病院は設備と病床もありこのような施設を併用すれば、採算は十分取れると思います。老朽化で建直すにしても、医師と理学療法士作業療法士の働き口の増加にもなると思います。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>東高校跡地を病院建設に使って欲しい。山間部の医療も担っているので新規に建設をお願いしたい。他県から移住したが、この病院はひどすぎる。入院も手術もこの病院でお世話になるのは嫌です(古い、不潔)。Wifiの無い病院は考えられないです。奥三河の代表的な病院にして欲しいです。駐車場も狭くて危ない。年配者に全く優しくない病院なので早期の建て替えを希望します!!</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。</p> <p>移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

提出された意見	意見に対する市の考え方																		
<p>【総論】 広報9月号、東愛知新聞の市民病院移転関連記事を見ますと、「市民病院あり方検討会」の結論「移転新築」ありきに限定した「説明」が角度を変えながら何度も列挙されています。 個人が夢の新居を構える場合、一番重要なことは費用の問題です。 自分及び家族の年収、支払期間、毎月支払額、それに見合った規模であるか？ 「移転新築」に必要な費用の返済について、詳細を市民にお知らせください。</p> <p>【個別事項 ①】 広報8ページ 「市民病院の役割（新城市の考え方）」 「新城市民病院は 愛知県が設定した「東三河北部医療圏」に属し、基幹病院（医療圏の中核を担う無くてはならない病院）」とあります。 又、「基幹病院の役割を果たすために、質の高い医療・救急医療を将来にわたって安定的に提供する必要がある」とあります。</p> <p>【質問】 愛知県発 東三河北部医療圏の現状 https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/438783_1978247_misc.pdf によりますと、当医療圏の人口は</p> <table border="1"> <tr> <td>2020年</td> <td>52,923人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2025年</td> <td>49,052人</td> <td>予測</td> </tr> <tr> <td>2030年</td> <td>45,345人</td> <td>予測</td> </tr> <tr> <td>2035年</td> <td>41,656人</td> <td>予測</td> </tr> <tr> <td>2040年</td> <td>37,914人</td> <td>予測</td> </tr> <tr> <td>2045年</td> <td>34,190人</td> <td>予測</td> </tr> </table> <p>約20年後の人口は現在の65%となり、ますます消滅都市に向かって加速度を増していきます。</p> <p>現在、新城市の救急医療は 東三河南部医療圏（豊川、豊橋）へ依存し、周産期に関しては長年ゼロベースで、現状とても基幹病院と言えない実績が「移転新築」で改善される可能性を詳しく教えて下さい。</p> <p>又、東三河南部医療圏の人口は 2020年 約70万人です。 人口比率で北部医療圏は、南部医療圏の8%弱しか無い地域に、市の方針「質の高い医療・救急医療を将来にわたって安定的に提供する必要がある」基幹病院を「移転新築」して採算が合いますか？ 建築費の概算だけでなく、医業収支の見通しを具体的に示さない「市民病院あり方検討会」の結論は片手落ちだと思います。 市民の皆さんに詳細を伝え、意見を聞いてください。 私は、新城市民の一人として、新城市民病院が立派な基幹病院となることは、ならないより良いと思います。他の重要案件とのバランスはどうなのか？</p> <p>【個別事項 ②】 「基幹病院にふさわしい建物・設備」「移転新築」ばかり論じているが、「基幹病院にふさわしい 医師招聘」はどうなっているか？ 新城市民病院が、東三河北部医療圏の基幹病院であると自負しても救急患者が南部医療圏へ流動し、大切な新城市民誕生を担う産婦人科が無いままになったのは、平成16年に始まった新医師臨床研修医制度変更により常勤医師が極端に減少したことから始まっている。 この問題について、 「東三河北部医療圏情報 地域医療対策協議会公式ホームページ」で 「新城市の医療情報」についてお尋ねいたします と 穂積市長にインタビューした記事がある。</p> <p>地域にかける思い「新城市長 穂積亮次氏」 東三河北部医療圏地域医療対策協議会 (isikite.org)</p> <p><http://www.isikite.org/400/420/post-1.html></p> <p>穂積市長が4期16年をかけ、研修医制度変更の逆風の中、基幹病院ふさわしい医師を「どのようにして」「どれだけ員数を招聘できたか」実績を公表すべきだ。</p> <p>また、新市長 下江氏はこの問題をどうするのか？ この問題に対する前回のパブリックコメントに対する「市の考え」は 「関連医科大学及び愛知県等へ医師招聘要請を更に強化する等医師招聘に努めてまいります」とのこと。 このような、曖昧な総論的な方針で、4期16年をかけ 穂積市長ができなかったも問題が解決できるのか？ 病院の建物を新しくすれば全てが解決できるのではなく、基幹病院にふさわしい医師が存在して成り立つのではないか？</p> <p>更に2024年4月から医師の働き方改革が施行される。 大変厳しい労働時間規制内容で、既に一部大学病院等は医師の引き揚げを開始しているとのこと。 愛知県は、その状況を危惧して、県内医療機関に「引き揚げ実態調査」を開始している。 「基幹病院にふさわしい医師招聘について」新市長は、医師確保について就任以来の具体的な実績と、総論的でない今後の取り組みを詳しく市民にお知らせください。</p>	2020年	52,923人		2025年	49,052人	予測	2030年	45,345人	予測	2035年	41,656人	予測	2040年	37,914人	予測	2045年	34,190人	予測	<p>返済や収支計画については、今後行う予定の基本構想、基本計画の段階で検討し、お知らせします。</p> <p>施設・設備は最も古いもので築41年が経過しており老朽化が進み、このまま何もしないままだといずれ住民に医療の提供が出来なくなります。また、医療提供体制については、愛知県東三河南部医療圏との機能分化・連携強化を進めていきます。</p> <p>また、事業費に関しては適正規模での事業となるよう事業費の抑制、将来負担の縮減に努め、また、持続可能な病院の経営という視点を持った再整備とすることが重要であると認識しています。医師確保については、2022年3月に策定した新城市民病院公立病院改革プランの51頁に記載してある取組や市長マニフェスト取組状況報告書 (https://www.city.shinshiro.lg.jp/shisei/shicyonoheya/manifest/torikumi_joukyou.html) をご覧ください。</p>
2020年	52,923人																		
2025年	49,052人	予測																	
2030年	45,345人	予測																	
2035年	41,656人	予測																	
2040年	37,914人	予測																	
2045年	34,190人	予測																	

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
12	<p>現在、市内介護事業に従事しており、入院、外来診察等お世話になっています。過疎地域で人生を全うする為には在宅復帰する為のリハビリ強化病棟 PT OT STの関わりが充実している病棟、人材、人員確保ができ、1日にリハビリ可能な時間を全て活用できるようにして頂きたいです。現在、そういう病棟から退院されている方は、介護度も下がり、在宅復帰力が高いです。病棟内だけのリハビリだけではなく、最寄りの駅、バス停、買い物、公共施設、機関を利用できる、退院後の生活状況に応じて実践できる、病院ができれば、短期間サイクルで在院日数の軽減、在宅生活者の維持に繋げていく事が、新城市全体の人口維持、存続できるのではないかと考えます。介護士さんの人数を増やす事は、若者の就労できる場所、定着もできるのではないかと？中学世代から市内進学、専門学校へつないでいく事へもつながらないか？同世代で、専門資格を持っていても働く場所がないように感じています。</p> <p>救急の必要性も感じていますが、救急判断できても即入院、必要に応じて外科的な事ができれば良いのですが、医師、看護師の確保が安定できるのであればお願いしたいです。</p> <p>医療機器を使用されている、患者さんのレスパイト機能の充実、金銭面で今後は困窮される方の制度の見直しもあるとは思いますが、滞在費、部屋代？個室代？は中々、一万円代は私達世代には支払いできません。その為、個室病棟は必要と思いますが、支払い可能な金額設定をお願いしたいです。個室のトイレには手すり、車椅子でも可能な物、介護しやすい事をお願い。</p> <p>終末期ケア病棟を必要数確保があれば、若年層の方が家での生活を望んでも、気持ちは常に変化するので受け入れしやすい、病室があれば、最期は自分の暮らした地域でが実現できるのでは。在宅医との連携は必須ですが。</p> <p>土日祝日等、休日の対応、救急車程ではなく、介護タクシーでは心配、そんな時に病院からの送迎ができれば良いと考えます。面積が広く、移動手段確保が最大の課題です、医療機器がある方には、以前は専門チーム確保に10万単位で依頼したケースもありました。</p> <p>この地域で市民と一緒に考え、何を必要としているのか？新城市の独自の改革をお願いしたいです。この地域の力になればと考えています。</p> <p>よろしくお願い致します。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。 また、今後予定されている基本構想、基本計画策定時には市内関係事業者や市民等の意見を聴取する機会を設ける予定でいます。</p>
13	<p>(1) 1床90㎡の根拠は 現在の病床利用率を考慮してください。 (2) コスト面で、100億とあり、土地取得費、外構工事費除くとあります。 あり方検討会報告書にあります、近年建設された国立病院（150床～400床）の数字と比較して、だいぶかけはなれている感じがしますがいかがですか。 参考に三豊市みとよ市民病院参考にしてください。 新城13, 500㎡ 150床 1床あたり90㎡ 100億 年次未定 三豊10, 003㎡ 122床 1床あたり82㎡ 40億 2019年 年次と今の物価高を考えると無理かも。 (3) 工期が短いと思われます。地質、地震等調査入念にお願いします。 (4) 人口減少、高齢化2025年以降予測難しいですが全国の動向を注視してください。 (5) 項目の欄の立地変更の影響欄にあります。病院までの通院を心配していますがとあります。立地未定の段階ですが、病院直接乗り入れできるバスを計画できるよう配慮されますようお願いいたします。 交通問題は大切な要件となります。例えばコロナワクチン注射のとき、山梨県北杜市は交通不便者の方たちに無料バス、乗り合いタクシーを提供しました。ちなみに北杜市は、新城と同じくらいの人口規模で、面積は2割ほど広いです。</p>	<p>1床当たり90㎡については、近年建設された国公立病院（150床～400床）の事例により算出しました。また、病床数や面積は検討のための仮設定の段階ですので、平均値95.5㎡、中央値80.7㎡だったため、やや大き目の数値で仮設定しました。また、約100億円の中に、既存施設の解体費を含んでいます。 また、事業費に関しては適正規模での事業となるよう事業費の抑制、将来負担の縮減に努め、また、持続可能な病院の経営という視点を持った再整備とすることが重要であると認識しています。 なお、現在の病床利用率は令和4年度で48.3%です。</p>
14	<p>移転新築については、否定はしませんが、地権者の立場としては、今貸している土地の利用を移転したとしても再利用を考えてほしい。</p>	<p>移転した場合は、跡地利用についても検討していく予定です。</p>

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
15	<p>場所として自宅に近いので現在のところが都合としていいのですが、現在の場所は狭いこともあり前からもうすこし広い所への移転もよいのではないかとは思っていました。また、先に旧新城東高校へのいろいろな施設を総合的にまとめることもとの話しを聞いたこともあったので、やや遠くなるが出来れば移転新築でどうかと思います。さらに工期が長くなれば現在の様に物価変動等が大きい中であれば、できるだけ短いこともへの考え方を望みます。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>
16	<p>新城市民病院 移転新築に向けての要望 ・設備を充実させることが必要 現在の古い建物を残さず新築するということで、建物自体の清潔感は絶対に確保され、患者も職員も気持ちよく使用できると思います。その中で、現在病院という施設が、必要な人しか利用されない限定された施設であるということが言えます。新城市は、市役所も新しくしましたが、そこもまた、用事のある人しか使用されない施設です。2023年、コロナによる活動制限が緩和され、ある程度人が集まるのが許されるようになってくる中で、熱中症対策として、公共施設の一部を、涼める場所として開放している都市もありました。そこで、市民病院新築にあたり、病院をもっと身近に利用できるよう、夏はクールスポットとして、冬はホットスポットとして集える空間を整備することで、地域とのつながりも生まれ、また熱中症による救急搬送を減らしたり、独居の人も来やすい環境にすることで、孤独死なども予防していけないのではないかと考えました。子供たちも集えるスペースを確保することで、老若男女が交流でき新城市全体が、互いのことを認識し、地域のつながりがより強くなり防犯にもつながると思いました。いま、述べたものすべてがうまくいくのは無理としても、市民が気軽に立ち寄れる場所として、フリースペースを作ることは、災害時の避難所としてのスペースを確保することにもつながるため、ぜひ上手な空間利用ができるような設計を求めます。</p> <p>職員目線では、スタッフの動線をしっかり考えた設計になるよう現場で働くスタッフに細かく意見を募ってほしいです。しかし、新たな設計の間取りを見ても、設計の素人はイメージがつきにくいので、3Dでデータを作ったり、実際に動く目線がわかるようVRなど利用した設計の視聴ができるとよりよいと思います。近隣の豊川市民病院でも、実際に働いてからのハード面への不満が生まれている現状があるため、設計段階での調整はとても重要と考えます。市民の声、職員の声をしっかりと聞いた設計をしてもらえるよう、委託業者の選定も重要と思います。</p> <p>現在、救急医療が不十分といえます。急病で一番近くの市民病院で処置がされないということは生活の不安にもつながるし、助けられる命が助からないというのは、家族としても心苦しいです。近い病院は豊川市民病院または豊橋医療センターで、そこまで行けたとしても経過した時間は戻らないため、時間がもう少し早ければ、という事例も少なくないと思います。なかなか医師確保の問題もありますが、医師が来てもらいやすい環境に整えることも大切だと思います。建物がきれいというだけでない、周辺の環境もとても大切であるため市民病院建築の際に、直接関係ないこととは思いますが、それを見据えた立地場所が大切かと思いました。成人の急病もそうですが、少子化ではあるが子供もすむ土地で、小児の入院が不可能であるのは親にとってはとても負担です。付き添いが必要であるが自宅のことも気になる。医師の適切な配置で、必要な医療が受けられることを強く望みます。また、職員が働くうえで、子供を預けながらという人も多いと思うので、託児施設を充実させ小児科と連携し、病児保育も病院施設内でできるよう整えられるとよいのではないかと思います。</p> <p>子育て世代が働く場所としても、医療スタッフは夜勤があったり休日出勤があったり不規則なため、働きにくい現状があり、それはほかの都市でもいえることです。しかしそれでもここで働きたいと思えるのは、子育てしていても働きやすい、有事の際には休みがとりやすい環境というのがとても大切ではないかと思います。新築に合わせ、スタッフをより多く集め、柔軟に勤務体制が作れるよう考慮されると、市内在住で市外で働く医療職の方が転職しやすいのではないかと思います。現状のスタッフの体制がどうなっているかはわかりませんが、医療の充実に加え人員配置、働き方への配慮がなされるとよりよいのではないのでしょうか。</p> <p>現在、新城市民病院では、どれくらいの検診や人間ドックの受け入れがなされているか把握していませんが、他の施設では、食事券がついてきたりして市外からの需要があるところもあります。ほかの三次救急病院に比べゆとりをもって検査ができるのであれば、検診やドックの受け入れがもっと増えるよう、新城の観光と提携した付加価値のあるアナウンスをしてもよいのではないかなと思います。しかし公立病院であるためそのようなサービスがどこまで可能かは市長や議会の方々の判断が必要かと思いますが、何かしらメリットがある、継続して検査すると割引とか、毎年の検査で割引とか、そのようなものがあるほうが利用率も上がると思います。また市内の住民対象としても、検診やドックなどによる、予防的行動を増やすことで、重症化を減らすことにもつながります。救急医療がまだ不十分な中で、いかに病気をしない、持病を悪化させないようにするために、支援していく必要があると思います。病気になっても、病気の理解は二の次で、出された薬を飲めばいいとか、定期的を受診していればそれでいいなど、自分の体のことなのに、人任せな患者は多いと思います。予防のため、悪化しないため、自分の体や病気と向きあい、元気で過ごす時間を増やす工夫をしたり、重症化してからの受診にならないような取り組みが必要だと感じました。もちろん前述したように、救急医療を充実させることができることも大切だが、少ない医療でどう住民の健康を守るかというところをまず充実させ元気な新城であることが一番良いのではないかと思います。</p>	<p>設備を充実させることが必要との要望でございますが、必要な設備等や付加機能、職員導線については今後行う予定の基本構想、基本計画で検討させて頂く予定です。</p> <p>また、基本構想、基本計画策定時に市内関係事業者や市民等の意見を聴取する機会を設ける予定で、できるだけ様々な意見を反映した市民病院となるよう検討をして参ります。</p>

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
17	<p>●P42意見</p> <p>総合評価について、移転新築が適切であるとした内容を支持します。 それとともに、移転新築については現在廃校となっている旧新城東高等学校跡地の有効活用が適切であると意見いたします。 この意見を出しました理由については、以下の通りです。</p> <p>◆考えられる主なメリット</p> <p>①利便性 現在151号線新城バイパスは新城IC付近で4車線化工事が行われており、将来的に旧新城東高校周辺まで4車線化となれば、交通量増加の懸念はあるものの、従来に比べてスムーズに緊急車両が通過できるようになり、救急患者の効率的な受け入れが可能になるほか、新城ICに近くなることで、輸血血液製剤等の搬送もより容易になることが期待できます。 また南北方向の通行を分断する飯田線についても、当該跡地の目の前から南方に通っている392号線が跨線橋となっており、鉄道の運行に左右されず迅速に患者を搬送することができます。 住民利用についても、デメリットとしてP41に通院困難となる患者発生の可能性が指摘されておりましたが、当該跡地は交差点から120m程度の場所に「旧新城東高等学校バス停」が設置されており、公共交通機関を活用できることから影響を最小限に抑えつつ、豊鉄バスのダイヤ等に与える影響も少なくできるものと思います。</p> <p>②土地の広さ P43の職員の新病院に対する声の中で、敷地内へのヘリポート設置が意見としてありましたが、ヘリポートの設置基準について航空法や国土交通省通達を確認しますと、侵入区域や着陸帯の面積についてかなりの広い場所を必要としますが、元々グラウンドが複数あり周囲の見通しが良く建築物も少ない同敷地であれば、用地も確保でき、ドクターヘリや防災ヘリの着陸を容易たらしめるものと思います。人口密集地から離れているため、万が一墜落等が発生した場合にも、被害は最小限に抑えられます。 (仮に設置が困難でも、隣接する新城市消防本部のヘリポートを活用できるほか、当該跡地であれば新東名長篠設楽原PAからほぼ一直線に降りてこられるため、有事の際にも2重3重に予防線を張ることができる。)</p> <p>③用地確保 確証はありませんが、当該跡地は県立高校として管理されていたことから、愛知県ないし新城市が土地所有権を保有しているものと思われ、一般市民が所有する土地の確保交渉と比べて、交渉がスムーズになされ、価格のつり上げ等による予想外の予算確保が必要になる可能性が最小限になるものと思います。</p> <p>④夜間利用等 当該跡地周辺は、現在の新城市民病院が建つ場所に比べて一般宅地が少なく、夜間の緊急車両走行にあっても、元々新城市消防本部から救急車や消防車両が問題なく出動している(≒サイレンの騒音に対しある程度は住民からご理解を頂いている)ことから、夜間の救急患者搬送に際して、住民への影響が最小限になると考えられます。</p> <p>⑤拠点化の推進 当該跡地は新城市消防本部のすぐ隣に位置しており、拠点の集約化が期待できます。搬送後の緊急車両について、消防本部への車両回送もよりスムーズになるほか、有事の際には情報共有もいづらか容易になり、災害等で道路が被災したとしても、消防と病院が同じ151号バイパス沿いであれば、優先度が高い復旧対象の道路を減らすことができるため、集中して復旧作業ができ病院機能の早期回復が見込めます。 周りには高い建物もあまりないことから、新城市在住者以外が利用する際にも、新城ICから一本道で走れば右手に見えるため目印としやすく、見えないところでも効果がでるのとは考えています。</p> <p>⑥周辺資源の有効活用 当該跡地周辺にはファミリーマート新城富永店やグリーンヒルがあり、患者の家族が面会する時等に時間を潰せるほか、入院等で夜間急に必要なものを揃える、となった場合にも不便を最小限にでき、病院に勤務している職員についても、24時間食事等を確保でき種類も豊富であることから安心感があるものと思います。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。 移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
<p>18</p> <p>新城市民病院の今後は、旧新城東高校跡地を取得し、そこに移転新築してはいかがでしょうか？</p> <p>国道151号線沿いであり、道路交通の便がとても良いし、市内のほぼ中心に位置してますし。周りが田園地域で、ドクターヘリコプターや防災ヘリコプターなどの活動がしやすい利点があると思います。また、消防署に近いのも、強みですね。現在の病院で、駐車場不足に悩まされていた問題も解決します。</p> <p>そこ以外は、広大で最適な土地は見当たらないのです。もし、旧新城東高校跡地が、第三者に渡ったり、別の用途にしてしまったら、もう移転新築が困難になるかと思います。</p> <p>ただの市民の意見に過ぎませんが、参考にさせていただければ幸いです。</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>	
<p>19</p> <p>私は、東栄町で暮らしている喘息患者です。新城市民病院では、呼吸器科の玉腰先生、看護師さんにお世話になりました。また精神科の浅尾先生、皮膚科の島田先生にも診察していただき、本当によくなりました。ご承知の通り、村上町政のもと東栄病院の廃止により、北設楽郡から入院・透析・救急医療がなくなり、北設の町民と村民は、新城市民病院の充実が切望されているところです。</p> <p>私は、あり方検討会の報告を一読し、極めて問題だと感じました。</p> <p>1つは、新築なり改築なりする新城市民病院が提供する医療体制が具体的に描かれていないことです。ソフトなしにハードだけの議論は、ほとんど意味がないのではないかと。なぜか、入院ベッド45床の大幅削減だけが決まっていることに、私は、不信を感じます。東栄町でも行われましたが、入院ベッドの数の根拠は通年の平均ではなく、冬場の一番占有率が高いときを基準にしなくてはなりません。</p> <p>2つ目は、現在、ほとんど対処できない心疾患・脳疾患の救急医療の再建、周産期医療の再開を本気で検討してほしい。</p> <p>3つ目は、ウワサで廃止が囁かれている人工透析を絶対に守ってほしいということです。東栄町の村上町長は、選挙で透析維持を公約しながら当選して半年後、突然、廃止したのです。報告概要は透析維持をうたっていますが、本当でしょうか。このような疑心暗鬼を払拭するためにも、建設ありき、でなく、まずは、どのような医療を提供するのかという問題を、市民・患者・医師と看護師ら当事者を参加させて決めていただきたい。職員だけで決めてはなりません！</p> <p>4つ目は、建設費の算出の仕方が、極めて恣意的ではないかという大問題です。素人でも分かるような、アンフェアな建設費を並べた3案は、改めて再検討していただきたい。新築移転案は、土地代・外構費・医療器具費・解体費などを含めたとき、総額いくらになるのか、市民・患者に再提示していただきたい。市民、私たち患者は、もう、新城市のやり方に騙されません。市当局は、誠実に対応していただきたい。作手診療所の看護師全員病休事件は、新城市当局が、いかに地域医療と看護師のみなさんを軽視してきたのかを明らかにしました。絶対に許せないことです。100億円の建設費なんて、簡単に書くべきではありません！ 以上</p>	<p>病床数は検討のための仮設定の数値であり、ソフト部分であるベッド数を含めた医療提供体制等ですが、職員だけで決めるのではなく、今後行う予定の基本構想、基本計画の段階で病院職員はもちろんのこと、医師会、歯科医師会や有識者等を交え議論していく予定です。また、事業費に関しても今後行う予定の基本構想、基本計画の段階でお知らせします。</p>	

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
20	<p>1、小児救急・周産期医療再開のための建て替えを</p> <p>新城市民病院は近年、医師の不足により、一部の診療科の休止や小児等救急患者の受け入れ制限など、深刻な事態を経験してきました。</p> <p>現在、愛知県の5分の1の面積を誇る東三河北部医療圏には、小児が入院できる病院も、出産できる病院も、ひとつもありません。過酷な環境のなかで、医療圏内の出生数は低く、死産率は愛知県平均を大幅に上回っています。</p> <p>愛知県の東三河北部医療圏保健医療計画（令和4年3月）は、小児救急についての「課題」として、「小児科医が1人のため、小児の救急及び入院医療が制限されており、2次、3次医療には対応していません」「新城市民病院に小児科医を複数配置し、救急対応を可能にすることが必要です」「医療圏内に入院可能な医療機関の整備が必要です」と記しています。また、周産期医療の「課題」として、「医療圏内に分娩を扱う医師及び医療機関の確保が重要です」と記しています。この地域住民の生命にかかわる「課題」を解決し得るのは、東三河医療圏唯一の2次救急指定病院である新城市民病院だけなのです。</p> <p>私は、新城市民病院の再整備という大事業にあたって、まずしなければならないことは、病院の場所や大きさの議論より、愛知県と協議を尽くして医師の派遣を増やし、周産期・小児救急を再開する道筋をたてることだと考えます。また、腎臓内科のドクターもお一人とのこと、透析患者さんからは新城市民病院が透析から撤退するのでは、との不安の声を聞きます。</p> <p>新城市民病院が今後、この地域でどんな医療を提供すべきなのか、そのための医師確保をどうするか、それこそ「検討会」が議論すべきことではないでしょうか。</p> <p>この「報告書」には特段の検討の形跡が見られないため、あらたな新城市民病院は引き続き、子どもを産めない、子どもを救急で診てもらえない病院となるものと考えます。たいへん悲しく、残念に思います。</p> <p>北設楽郡の保護者は、子どもの緊急時に「最低でも豊川市民」という不安の中で子育てをしています。豊根村の妊婦さんが、80km離れた豊川市民病院に救急搬送されることは、果たして東三河南部医療圏との適切な「連携」といえるのでしょうか。</p> <p>私は、新城市民病院が建て替えを契機として、この地域唯一の基幹病院としての責任を果たしていただくよう、心から求めます。</p> <p>2、コスト評価は公平に</p> <p>報告書は、病院の「あり方」を検討するとしながら、実際には、建設場所・建設方法を市民に選択させるための資料になっています。</p> <p>新築移転案の整備コストは100億円（税込）とのことですが、医療機器整備費のみならず土地代・外構工事費を除外した金額で他案との比較を行うことは妥当ではないと感じます。</p> <p>新築移転案にかぎって敷地内の舗装や駐車場の整備などを行わないなどという計画なら別ですが、一般的には外構面積に応じた標準単価を加えるべきだと思います。さらに、新築移転にともない廃止となる現在の新城市民病院の解体費用を含めて、はじめて比較可能なコストが示せるのではないのでしょうか。新築移転案をことさら割安に提示しているようで、公平でないと考えます。</p> <p>3、医師の意見は反映されているのか</p> <p>委員名簿には、「医師」という肩書きの方はおられませんでした。</p> <p>私は愛知県の会議などを傍聴した際に、新城市民病院や医師会の先生方が、国・県の病床削減の方針にたいして病床の維持を求める姿や、東三河北部医療圏の機能を維持・強化して患者の流出を食い止めるため、県のさらなる支援が必要だと訴える真剣な姿を目にしてきました。</p> <p>報告書は、全3案ともに入院病床49床の削減という案を示していますが、どの程度、医師のみなさまの意見を反映したものでしょうか。</p> <p>私は、いま重要なことは、医療スタッフを確保し、より多くの患者を受け入れられる体制をつくることだと思います。報告書のように、新築移転ありき、病床削減ありきでは、東三河北部医療圏の患者は、今後、さらなる流出を余儀なくされることになると思います。</p>	<p>この地域でどんな医療を提供すべきか等は今後行う予定の基本構想、基本計画の段階で病院職員はもちろんのこと、医師会、歯科医師会や有識者等を交え議論していく予定です。</p> <p>コストに関して、移転新築案のコストには解体費用は含まれています。</p> <p>医師の意見については、幹部医師へのヒアリングを行い、また、医師で構成する会議で説明し、意見聴取を行っています。</p>

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
21	<p>私は新城市民病院の役割は、奥三河（設楽町、東栄町、豊根村）の基幹病院ですので、北部医療圏を守ることです。絶対に民営化しないでください。市民が知らない間に民営化になるのではないかと心配です！！</p> <p>本題に入りますが、なんで移転しなければならないのでしょうか。私は反対です。移転となると、新たに土地を買うお金、病院を建てるお金、その他解体料などなど又、解体した跡地はどうなるのですか。</p> <p>住民の声を聞かずに、ほずみさん、それを引き継いだ市長の下江さんは、学校給食の自校方式からセンター方式にきりかえした学校給食センターの（50億とも言われています。）二の舞になるようでこわいです。</p> <p>私は新城以北は、これ以上絶対に自治体の合併はしてはならないと思います。</p> <p>小さくてもキラリと光る町にすれば良いのです。無駄な支出を押えて、公設、公営で新城市民病院であってほしいです。なぜなら、地域の個人病院との連携が出来るからです。</p>	<p>経営形態については、2022年3月に策定した新城市民病院公立病院改革プランの63頁でお示した通り公設公営を基本としています。</p> <p>返済や収支計画については、今後行う予定の基本構想、基本計画の段階で検討し、お知らせします。また、移転した場合は、跡地利用についても検討していく予定です。</p>
22	<p>①新城市民病院の移転先は有教館高校のあと地で「県立新城奥三河総合病院」として、市民病院の機能を拡大する、奥三河の中核病院としてスタートする。</p> <p>②151に面しており、交通の便（新東名に近い）がよい、新城及び東新町駅間のシャトルバス運行で東栄町etcの人にも利用の便をよくする。（新東名への出入りもしやすい！）</p> <p>③現市民病院は総合内科を中心とした通院中心の病院とし機能を縮小してムツかしいものは県立へ！</p>	<p>貴重なご意見として承り、今後の事業の参考とさせていただきます。</p> <p>移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>
23	<p>結論・「移転新築案」（以下案という）の方向性に反対。</p> <p>理由。下記、箇条書きに示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民市民に判断を求める周知方法が、不公平です。2023年3月にホームページにパブリックコメントの締切9月15日と公表。「ほのか」など周知なく、限られた人しか知らされないのでは全市民に対する公平な周知とは言えない。陳謝のみで、改善しないまま住民市民に意見を聞かない事業・「給食センター」が、すでに強行されている例をみると、今後が懸念される。 ・案は、職員のみ結論です。「検討会」メンバーには院長、そして医者も一人も参加していない、患者代表もいない、当事者能力が見えない「検討会」は、アンフェアです。「移転・先にありき」で強行されている気配が感じられる。 ・案は「移転新築の方向性」決定のみが強調されており、中身が無い。特に移転を契機に経営形態の変更として「公立公営」が「公立民営」などに変更される危険ささも感じます。隣町の東栄町は、公営の病院がなくなりました。同時に透析も入院もなくなりました。当市の病床数も同様、減少することはあっても増えることはなく、透析診療も東栄町と同じように、透析がなくなることも心配します。この検討がありません。 ・当市の「公共施設等総合管理計画」（以下方針）は、人口減少などを理由に既存の公共施設の延面積及び維持更新費用の将来30%程度縮減年10%削減が、数値目標です。 <p>案は、新たに建物約100億円と土地取得費、外構工事費、医療器械整備費などが加わりますので公共施設の面積、金額ともに増加も考えられる。方針との矛盾の検討がない。また、上積みされる土地取得費、外構工事費、医療器械整備費など巨額な金額が、明示されていない。全数値での比較できる判断資料を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新城市民病院は、どん底生活の敗戦年1945年に公立病院・床数20床として開院。 <p>以来、公立公営を守り通し1982年には病床数326床数を保有するまでに発展しました。案は、150床に縮小されている理由を示していない。単に人口減だから仕方がないでは、増える高齢者はどうするのか。災害緊急時はどうするのか、将来に希望が全く見えない。</p> <p>「床数の必要数」は需要が最高の時を考えるのが、僻地医療拠点の役割をもつ当市の必須の任務です。住民市民も同様です。要検討です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2007年まで存在したお産と救急医療の復活。子ども老人が安心安全に暮らし続ける地域経済の確立などの検討もありません。 <p>全市民による深い意思決定が必要です。</p>	<p>周知の方法ですが、広報ほのか9月号の8頁から11頁で特集として掲載しました。また、市民病院ホームページ、市民病院総務企画課・本庁・各総合支所、議員及び記者への情報提供、市の公式ライン、フェイスブック、X（旧ツイッター）でのお知らせ、病院利用者向けに院内1階総合窓口付近に職員を常駐させての特設ブースを設けました。</p> <p>経営形態については、2022年3月に策定した新城市民病院公立病院改革プランの63頁でお示した通り公設公営を基本としています。</p> <p>病院施設の建物面積ですが、現在の23,852㎡が報告書では13,500㎡となり約43%の縮減となりますが、今後他の計画との連携や整合性を含め検討し事業を進捗して参ります。</p> <p>経費や病床数等に関しては今後行う予定の基本構想、基本計画の段階で検討をし、お知らせします。</p> <p>全市民との深い意思決定については、今後行う予定の基本構想、基本計画策定時には市民等の意見を聴取する等の機会を設け、合意形成を図っていきます。</p>

新城市民病院 再整備に向けたあり方検討会報告書 パブリックコメント

	提出された意見	意見に対する市の考え方
<p>24</p> <p>■はじめに 報告書の文頭に以下のような記載「今後も質の高い医療の提供や、救急医療をはじめとする政策医療の重責を担い、東三河北部地域の基幹病院としての役割を十分に発揮し」と書かれているように新城市民病院は新城市民のための医療機関という位置付でなく、北設地域を包括する広域基幹病院として位置づけなければならないように思う。これは奥三河地域住民全体の地域医療のニーズ、また地勢、交通的な観点からみてもそのように計画され、改善されるべきものであるように思う。</p> <p>■今後の在り方について 概要版に示された3案を考えると「移転新築」が最も理にかないながら、合理的、持続的決断のように思う。その理由は以下のとおり。</p> <p>現状の市民病院はサイズ、立地ともに現状のニーズに正しくマッチしているとは到底言い難く、利便性、また今後の維持費用など、一切の発展的な持続を可能とする要素をそこに見出すことは難しいように思える。</p> <p>① 立地 ② 修繕費 ③ 将来の利用者ニーズに見合ったサイズ ④ 利便性 ⑤ 施設の持続性</p> <p>このような観点からも新規移転を望むものである。</p> <p>■新規移転にともない ①現在街中の空洞化を防ぐ条例のようなものが施設にかかっていると思うが、これらの条件の見直し、または見直すうえで必要な条件や理由を新たに建設する施設、場所が満たす役割、設計を速やかにおこなう。 ②新城市民の市民病院としての位置づけだけで①の条件を満たすものでなければ、奥三河エリアの広域医療拠点として県などの支援（例えば県立で設置するなど）を得て新たに条件設定をしないなどを行う。こうした観点には新城だけでなく、安心安全な暮らしの根幹をなす広域医療施設が新城市だけの負担により設置されるべきではなく、奥三河地域が今後も持続的に人が住める地域としてあり続けるための社会基盤として捉えていく必要があるし、それは愛知県全体からみた東三河、また奥三河中山間地域に対する位置づけとも連動し設計、運用すべきものでなければならないように思われる。</p> <p>このように新城市だけでなく、奥三河の広域の基盤となる施設を各町村、地域の診療所をデジタルで結び遠隔診療を行ったり、将来的には薬などをドローン等で配送するなど、今後社会が直面する中山間地域の医療における様々な社会実験を実証し解決する場として、県、基や基礎自治体と産官学の連携をもって様々な問題に向かいあう施設となることを切に願うものである。</p> <p>またその移転候補地としては昨年度あり方検討を様々な角度から行い、地域、経済界より提案された旧新城東高校跡地に広域医療施設としてその候補地とすることを希望する。ICからの立地、面積の広さ、周囲の環境、奥三河と下流を結ぶアクセスの良さなど、これ以上ない立地が揃っているように思えるし、病院施設とともに体育館や健康増進、ウェルネスを向上させる民間商業施設など併設し、そのようなコンセプトにより官民一体となったゾーニングを計画することなどが可能になるように思う。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。頂いた意見は、今後行う予定の基本構想、基本計画策定時に参考にさせていただきます。 移転先の候補地については、今後検討していきます。</p>	